

グラフ **みんなの県政**



立山に咲く こばいけそう

NO.2 昭和47年

愛と繁栄

- * 住みよい富山県をつくる
- * 富山県に繁栄をもたらす
- * 若い世代を育てる

この基本施策を着実に実施し、県民ひとりびとりが
ゆとりとやすらぎの中に 人間性豊かに暮せる
富山県にする。
これが私の努めである。

富山県知事 中 田 幸 吉



▲立山の雪どけ水を流す清流（雷鳥沢）



▲富山県青年の船出発に際し、花束を受ける中田知事

住みよい富山県をつくる

高度福祉社会をめざす

▼一人きりの老人をやさしくいたわるホームヘルパー(県内のホームヘルパー98人)



急激な社会変動から、ややともすればとり残されがちな「老人」。ことに高齢人口が増え、一方核家族化が進むとき、この老人問題はゆるがせにできない。

老人医療費無料化をはじめ、特別養護、老人ホームの設置や、老人のための福祉施設の充実に力を入れる本県は、老人に愛の一声運動を提唱している。もちろん児童や婦人、不幸な人たちのための福祉も着実に進められ、福祉県富山は、他県のせん望の的となっている。



▲目の不自由な人のための視覚障害者福祉センター誕生(富山市西田地方)

▼流杉老人ホームは秩父宮妃殿下を迎えて大賑わい



より美しく より楽しく
自然を大切に

自然環境保全条例を制定した富山県は、その自然保護に対する意欲はさかんである。
営々として祖先が残してくれたこの大自然を、今に生し、子孫に伝えるその保全対策は、荒廃したところの造成や、鳥や獣の保護など、各分野にわたってたてられ実行に移されている。



▲自然に遊ぶ人たちに万一事故があつてはと山小屋を調査する衛生監視員

▼昔日の美しい流れを今に残す富島峡

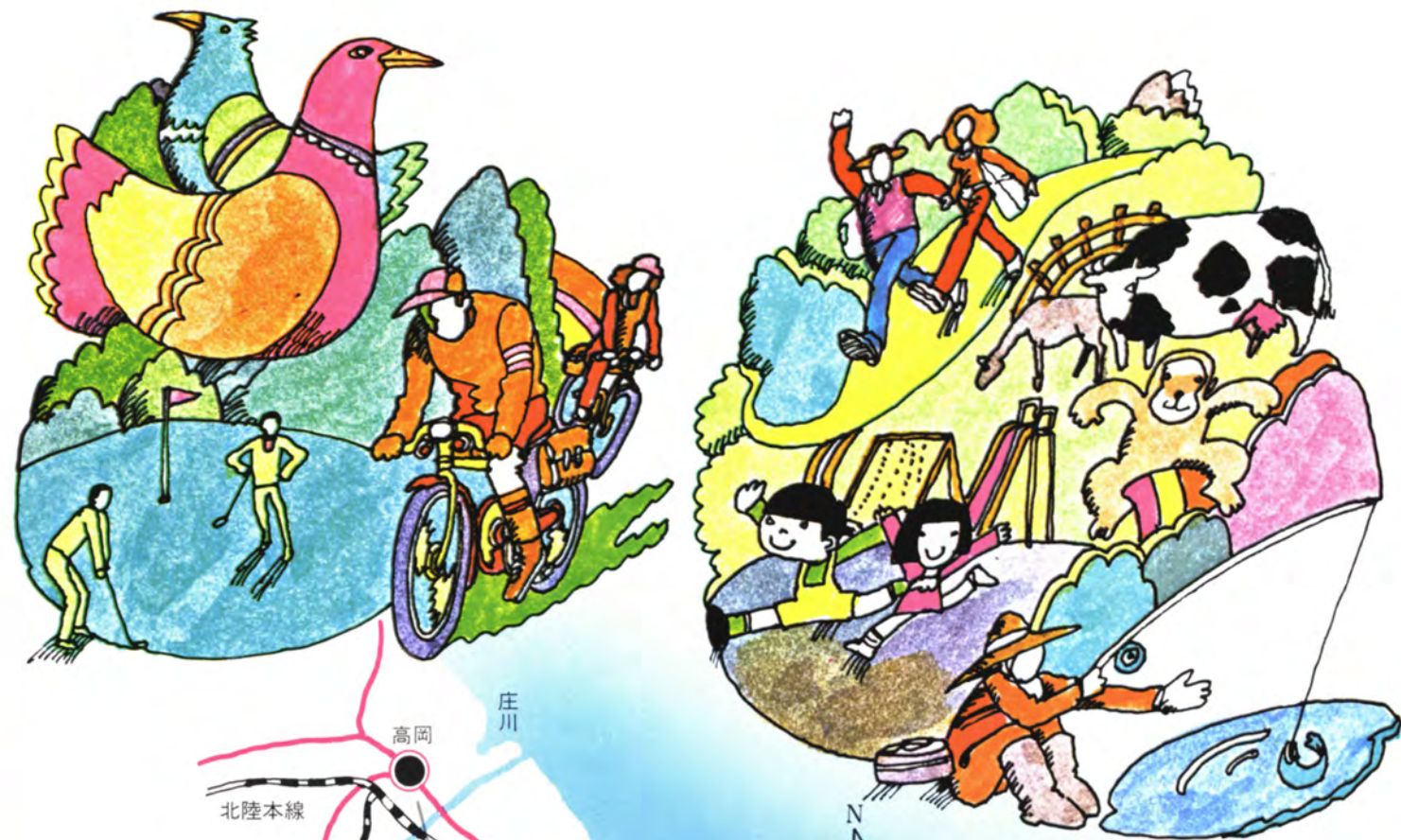


心豊かな楽しい夢を育てる

県民公園

緑と太陽の町太閤山ニュータウンの南から、植樹祭のあった砺波市頼成に至る県を中心部の丘陵地帯、約 2,000 ヘクタールに全国一の広い大規模な「県民公園」のマスタープランができた。富山・高岡を結ぶ遊歩・自転車道や青少年の健全育成のための施設をつくったり、自然をそのまま生かし豊かな心を育てるなどの楽しいプランは、いよいよ軌道にのった。

▼県民公園の一部になる小杉町女池附近



公害のない暮らし

日本四大公害の一つイタイイタイ病はカドミュームの鉍毒病であることがハッキリした。長い戦いであったが、ついにイ病患者の勝利となった。
公害のない暮らし、それは今の時代では最も望まれることであり、その実現に県も市町村も、企業も個人も、すべてが努力を結集しなければならない。



◀きょうも無事に、笑顔で送り出す明るい家庭



▲利賀川開発の定礎式

水資源の利用

たくさんの川、豊かな水量をもつ富山県は、県民の生活水準にあわせて、この水資源を多目的に有効に利用している。いま開発の槌音を響かせているのは、利賀川ダム、白岩川ダムだが、子撫川ダム、角川ダムも建設される。

▼立山町などの上水を確認する白岩川ダムは県下初のロックヒルダムになる



▲近代設備をほこる公害センター（小杉町太閤山）



▲消費生活センターは県民会館1階と4階に ありますお気軽にご相談を

消費者もよく勉強しよう

物価があがる。誇大表示だ。欠かん商品だ。など……。

すべての消費物資に対して、消費者は聞いて、見て、考えて、試してみる態度がなければならない。そのために、すべての消費物資は消費者に知らされ、選択でき、安全であり、その意見が反映される権利を与えている。

▼関心の高まった第2回消費生活展



県政バス教室で 県の仕事を理解

県はどんな仕事をしており、県にどんな施設があるのだろうか。県民のみなさんにつぶさに見学していただき、県の考えている計画や仕事を理解していただく「県政バス教室」は、大変好評で今後も走り続ける予定である。

▼新しい県の施設 呉羽ハイツに到着した県政バス(約50人が1団体) お問い合わせは県庁県民課へ



繁栄のためのアイデアどしどしと
知事と語る

▼すどい活発な意見がどんどんでて県政に直接生かされる(知事と語る婦人の集い—城端町から)



県民のみなさんと知事が直接ヒザを交えて話しあい、県政の発展のためにご意見を聞いたり、説明をしたりする「知事と語る」が、年数回開かれている。愛と繁栄の県政をめざす富山県のために活発なご意見やアイデアがどんどんでるようになった。

富山県に繁栄をもたらす

農業の近代化

水稲を基幹としながらも、積極的に野菜、果実、畜産を振興し、食糧供給基地として確固たるものにするよう、農業経営のソロバンははずむ。農道網の整備、圃場の整備、機械の導入、そして農工一体の推進など農業近代化は急ピッチ。

▼農業近代化の推進役 農業試験場が衣替えして新築(富山市吉岡)



▲ことしの第23回植樹祭から始められた新婚夫婦仲良し植樹(大沢野町御前山)

木を植えよう

森林はすみきった空気と清い水を私たちに与え、自然の猛威から国土を守り、レクリエーションの場となり、鳥やけもののすみかとなり、そして木材を供給してくれる。
一本の木を大地に植えるという体験は、自然に対して愛着をもつための一番手近な方法ではないだろうか。

▼自然を浄化してくれる美しい森林(立山町)

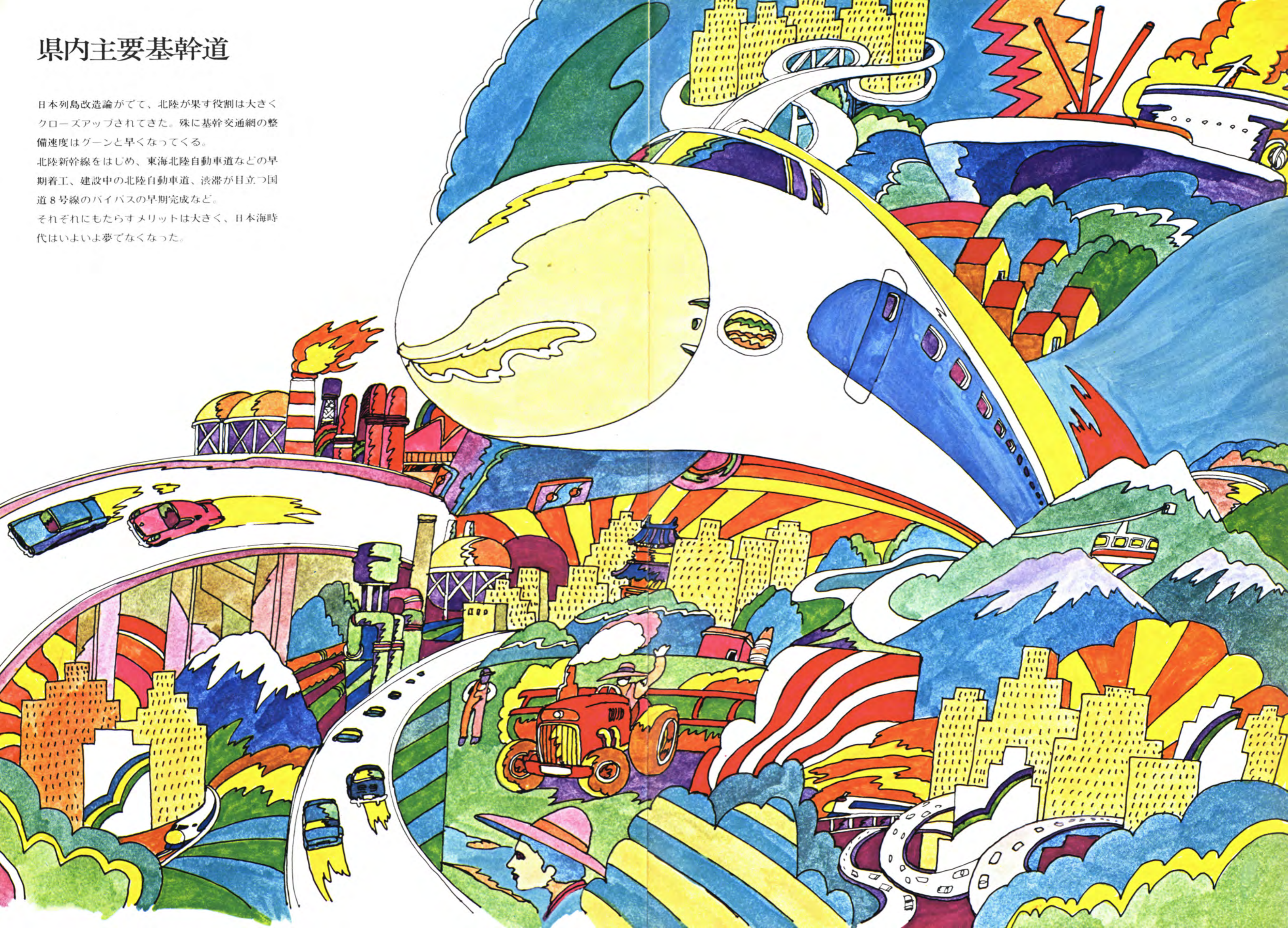


県内主要基幹道

日本列島改造論がでて、北陸が果たす役割は大きくクローズアップされてきた。殊に基幹交通網の整備速度はグーンと早くなってくる。

北陸新幹線をはじめ、東海北陸自動車道などの早期着工、建設中の北陸自動車道、渋滞が目立つ国道8号線のバイパスの早期完成など。

それぞれにもたらすメリットは大きく、日本海時代はいよいよ夢でなくなった。



とる漁業から育てる漁業へ

増大する蛋白源の需要を満たすため、とる漁業のみでは追いつかず育てる漁業へと試験研究がさかんになり、県内でもいくつかの魚種は栽培されるようになった。

▼えびの種苗を放流し、栽培漁業に期待をかける漁民 — 新湊漁場



近代化 合理化めざす中小企業

▼信用される品物をと各工程毎に品質をチェックするQCサークル運動は 近代化をめざす企業にとり入れられつつある



きびしい経済環境の中での中小企業に求められるものは、設備の近代化、合理化である。県ではそのための資金の融資、経営指導など積極的に取り組んでいる。また既存企業の育成、技術水準の向上、企業誘置にも努めている。

若い世代を育てる

第2回 富山県青年の船 ソ連へ出発

第1回は韓国、台湾、香港を訪問して、富山県の若者に各方面にわたって意欲をかきたてた富山県青年の船は、今年はソ連を訪問。8月5日富山新港をソ連船プレミアムール号で離れ、ナホトカ、イルクーツク、モスクワなどを訪れ、8月17日全員無事に帰富した。

団員の多くは、初めて見る異国に比し、日本のよさ、富山県の豊かさに今更のごとく感動を覚えたと伝えるとともに、心の豊かさを学ばなくてはならないと、その成果をたたえていた。





▲情報化社会に先がけて設置された商業教育センター(富山市五福)で真剣にとり組む高校生たち

学校教育の充実

生涯を通じての基礎教育の場である学校。ひとりびとりの個性を伸ばし能力を十分に発揮できるための教育の充実に力を入れる本県は、全国でもトップクラスの教育県である。

施設の充実、高校生徒収容率の引き上げ、私学振興など、ますます拍車がかかる。



▶まめまきで情操教育を受ける私立幼稚園児たち

体力をつくろう

水泳不毛の地といわれた本県にオリンピック選手が出現、男子100m自由型佐々木二郎は今や日本のホープである。

体位は全国水準より高い県内では、いま、スポーツに励む姿が目立つ。勤労者や家庭婦人のために学校の夜間開放も促進された。健康で明るい生活を築く礎になるスポーツは、個々の努力の積み重ねによって生かされる。

▼泥だらけ 汗だらけで熱戦を繰りひろげるチビッコサッカー(富山県少年サッカー広場 富山市港入船町)





▲黒部市に県下第3の青少年の家を建設(黒部市阿古屋野)

若者の施設 続々と

若者が一堂に集まって研修をする。体力づくりをする。そうした施設が続々できてきた。柔道・剣道の殿堂武道館は全国有数の設備と広さを誇っている。

▼立派だと折紙つきの武道館(富山市牛島)で全国中学生柔道大会富山県予選



▲伝統の「コキリコ」を受継ぐ秘境五箇山のよい子たち — 合掌造りの家は国指定重要文化財の村上家(平村) —

NO. 2

グラフみんなの県政



発行 昭和47年11月1日
編集 富山県県民課
印刷 富山スガキ

